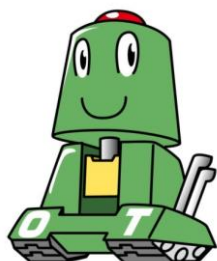


エコアクション21 【環境経営レポート】



活動期間 : 2023年5月～2024年4月



ハンマーロボ



チャッチャ犬



オーチガール



オーチマン



株式会社 大智鍛造所
OHCHI FORGING

発行 : 2024年7月5日
改訂

【ごあいさつ】

大智鍛造所が目指すのは

「鍛造工場らしくない鍛造工場」

鍛造の工程では、強い打撃で焼けた鉄を叩くため、どうしても騒音や振動が出てしまいます。また、素材となる鉄は約1200度まで加熱しなくてはならず、必然的に電気や都市ガスなど大量のエネルギーを消費します。おまけに、型打時にスケールと呼ばれる酸化鉄が機械の周りに飛散して…。

これを聞いただけでも、我々は環境に優しくない会社だと思われるかも知れません。

しかし、同じ鍛造会社でも我々の工場の機械は汚れていません。理由は簡単、「そういう業種だから仕方ない」という言い訳を許さず、毎日欠かさず機械と工場の床面の清掃を行っているからです。

エアースタンプハンマには最新の防振基礎を設置し、鍛造工場の外壁には音が通りにくいALC板を使用しています。

音と熱は鍛造工場の宿命ですが、作業員毎の冷風ダクト、水の気化熱を利用したクールルーフファンの採用など、少しでも快適な作業ができるように設備工事部の協力のもと改善を続けています。

大智鍛造所は、環境保全を掲げるには厳しい「エネルギー消費型企业」だからこそ、全員が一丸となって継続して取り組む姿勢が必要だと考えています。

私たちは、時代に応じた企業責任を自覚し、「鍛造工場らしくない鍛造工場」を目指してこれからも環境保全活動に取り組んで行きます。



【会社概要】

事業所名	株式会社 大智鍛造所
代表者	代表取締役社長 大智 靖志
所在地	兵庫県川西市加茂6丁目45番の1
創業	昭和18年5月1日
設立	昭和29年5月
資本金	5,000万円
事業内容	熱間型鍛造品の製造及び設備工事
主な製品	「自動車部品」 タイロッドエンド/クロスロッド/ブラケット/レバーブレーキシューなど 「農機部品」 カムシャフト/ヨークなど 「その他」 建機部品/油圧機器部品/工具/配管材料など 「設備工事」 鉄骨建築、運搬省力機器等の作製・設置
事業の規模	総売上高 2,229 百万円
(2023年度)	鍛造売上高 1,983 百万円
	設備工事売上高 245 百万円

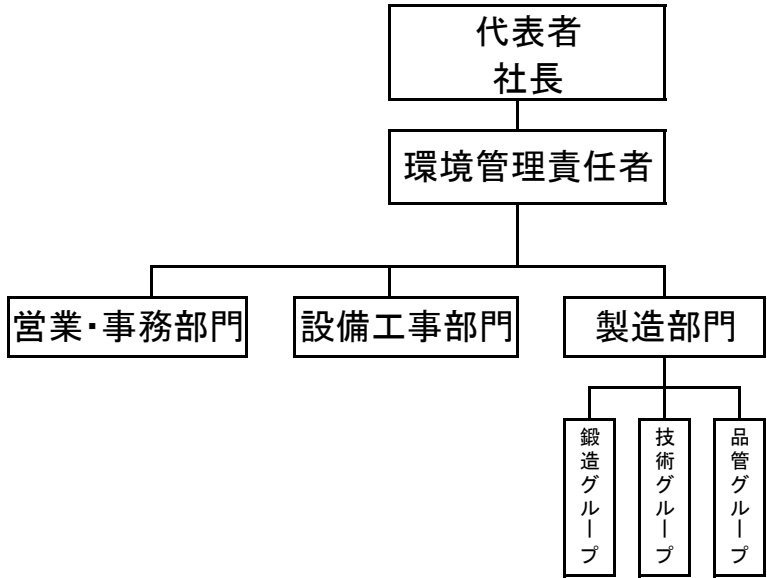


	本社工場	久代工場	合計
従業員数	27名	15名	42名
敷地面積	4385㎡	3959㎡	8344㎡

環境管理責任者	営業・生産管理Gr. 課長 藤村 勇介	TEL.072-759-4969
事業所・所在地	本社工場(川西市加茂6-45-1) ・ 久代工場(川西市久代1-6-6)	
適用範囲	全組織全活動が対象 「自動車部品」 「農機 建機」	



【株式会社大智鍛造所 環境経営システム組織図】



【環境経営システムに関する責任・権限】

役 職	責 任 ・ 権 限	
代表者(社長)	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境経営方針の制定 3. 経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定	
環境管理 責任者	1. 環境経営システムの確立、実施および維持するための処置 2. 社長に対し、環境経営システムの実施報告 3. 環境経営レポートの作成及び公表 4. 全員参画によるEA21の運営改善を推進 5. EA21関連文書の作成、改廃、保管、伝達の業務を推進 6. 文書類の作成・維持 7. 実施把握と進捗管理 8. 環境経営目標未達時の原因究明と是正検討	
製造部門 (主な業務)	技術グループ	無駄を省いた金型設計により歩留まり向上 環境保全に配慮した資材・設備を利用した製品づくり (金型設計、金型及び設備管理)
	鍛造グループ	設計・加工技術の工夫、向上による廃棄物の削減 技術の伝承 (材料切断、材料加熱、型打ち、トリミング作業)
	品質管理 グループ	照度の適正管理推進 品質向上活動による不良品発生の低減 (ショットブラスト、穴あけ、コイニング、出荷検査、品質取り組み)
設備工事部門	1. 施工方法や作業方法を見直し、エネルギーの効率的な利用 2. 建設現場等で発生する廃棄物を混合廃棄物としないよう徹底 3. エコドライブ等運転方法の配慮 (鉄骨建築・運搬省力機器などの製作設置)	
営業・事務部門	1. コピー用紙の削減 2. 節水 3. 節電 4. グリーン購入推進	
・当社は代表者から権限を与えられた環境管理責任者の下に具体的取組事項を推進する。 ・環境管理責任者は、エコアクション21の要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実施し管理する。 ・各部の担当者は、自らが組織の中でどのような役割を担っているのかを確認し、環境管理責任者の指示のもとに行動する。		

大智鍛造所の環境経営方針



基本理念

大智鍛造所は、良き企業市民としての責任を自覚し、国際社会の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」を考慮した事業活動を行い、未来に継承すべき環境保全に社員一丸となって取り組むことにより、カーボンニュートラルでレジリエントな社会の実現に貢献します。
また、「私たちがめざすもの、それは鐵を鍛え、鐵を活かしてお客様に満足をお届けすること」という経営理念に則り、以下の方針に基づき、環境の継続的な改善活動に努力します。



基本方針

1. 全ての事業活動が環境に影響を与えていることを認識し、その負荷を低減するため、社内に環境マネジメントシステムを構築し、継続して運用、維持、改善していきます。
2. 環境マネジメント活動の推進には、特に次の目的、目標を設定し、システムの継続的な改善および、環境汚染の予防を図ります。
 - (1) 電力・ガス・ガソリン等の資源を大切に使い、省エネルギー活動を推進し、二酸化炭素排出の低減に努めます。
 - (2) 設計・加工技術の工夫によりスクラップ削減に努めます。
 - (3) 省資源の推進を図り、廃棄物、水使用量の削減に努めます。
 - (4) 環境保全に配慮した建築物・工作物等の提案をします。



3. 環境関連法令・自ら受け入れることを決めた協定および業界規範を遵守し、地域社会への配慮に努めます。
4. 全従業員に対する教育を行い、環境経営方針の周知徹底と意識の向上を図ります。

以上の方針を達成するため、当社の各部門、各階層の力を結集して環境の保全に寄与いたします。

制定 2012年 5月1日
改定 2022年5月1日
株式会社 大智鍛造所
代表取締役社長 大智 靖志

【環境経営目標とその実績】

「過去の環境実績」

	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	1,423,898	1,472,782	1,513,302
一般廃棄物排出量 (kg)	1,380	1,200	1,200
水使用量 (m ³)	13,354	13,350	13,364
スクラップの削減 (t)	1,315	1,262	1,420

※水使用量は井戸水含む

※電力のCO₂換算係数は関西電力2019年度調整後の0.318kg-CO₂/kWhです。

「原単位(t)での目標と実績」

	2023年5月 ～ 2024年4月		
	目標	実績	達成度
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	326	300	109%
一般廃棄物排出量 (kg)	0.266	0.238	112%
水使用量 (m ³) ※上水のみ	0.086	0.080	108%
スクラップの削減 (t)	0.280	0.281	99.6%

※廃棄物：ウエス、紙ごみ等の一般廃棄物のこと

「原単位(t)での二酸化炭素排出内訳」

	2023年5月 ～ 2024年4月		
	目標	実績	達成度
電力 (kWh) ※	984	908	108%
都市ガス (Nm ³)	2.620	2.200	119%
ガソリン (ℓ)	0.479	0.362	132%
軽油 (ℓ)	2.550	2.010	127%
灯油 (ℓ)	0.036	0.035	105%

※電力のCO₂換算係数は関西電力2019年度調整後の0.318kg-CO₂/kWhです。

「原単位(t)での目標と実績の評価」

二酸化炭素排出量 (都市ガス・電気・ガソリン・軽油)	---目標値を9%上回る---	○
	稼働率・時間当たりの投入重量共に高水準を維持できた。 型替え時の型ズレ調整に改善の余地あり。	
一般廃棄物排出量 (ウエス・紙ごみ等)	---目標値を12%上回る---	○
	ウエスや紙を無駄に使用しないよう心がけた。	
水使用量	---目標値を8%上回る---	○
	節水を心がけた。	
スクラップの削減	---目標値を0.4%下回る---	×
	生産量が前年の13%アップ。 不良を早期に発見する体制づくりにより廃品低減につなげる。	

「今後3年間の原単位(t)環境目標」

	2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出量の削減 (Kg-CO ₂)	前年度比1%低減 297	前年度比1%低減 294	前年度比1%低減 291
一般廃棄物排出量の削減 (kg)	前年度比1%低減 0.236	前年度比1%低減 0.233	前年度比1%低減 0.231
水使用量の削減 (m ³)	前年度比1%低減 0.079	前年度比1%低減 0.078	前年度比1%低減 0.078
スクラップ排出量の削減 (t)	前年度比1%低減 0.278	前年度比1%低減 0.275	前年度比1%低減 0.273

化学物質の削減は該当無し

(会計年度は5月～翌年4月)

【2023年度の主な環境経営計画の取組み内容】

「二酸化炭素排出量の削減」		結果	取り組みの評価	次年度
二 酸 化 炭 素 排 出 内 訳	「電力使用量の削減」			
	◆ 全ラインの稼働率を向上させ、コンプレッサの稼働を抑える	○	稼働率改善	継続
	◆ チョコ停の要因を分析をし、ラインに横展開し稼働率を向上させる	○	稼働率改善	継続
	◆ 設備精度管理をし、定期的にメンテナンスすることで設備起因の大きな停止を無くす	○	設備起因の停止が減った	継続
	◆ リターン材を減らすことで二度焼きによる無駄な電力を削減する	○	減らすことが出来た	継続
	◆ 太陽光発電による購入量の削減	○	実施した	継続
「都市ガス使用量の削減」				
◆ 夏季、風呂の浴槽を使用せずにシャワーのみでの利用		○	実施した	継続
「ガソリン/軽油/灯油使用量の削減」				
◆ エコドライブを指導/実行する(ハイブリッド車を優先的に使用する)		○	ハイブリットを優先した	継続
◆ 社用車定期点検を実施する		○	実施した	継続
「スクラップの削減」				
◆ 各個人の技能を向上させ、不良率の低減に努める		△	低減に努めた	継続
「一般廃棄物の削減」				
◆ 裏紙を使用することで、コピー用紙の削減につなげる		○	実施した	継続
◆ ウエスを必要な量だけ切って使用し、使用量を削減する		○	実施した	継続
「節水」				
◆ こまめに節水に努め、無駄な水の使用量を低減する		○	実施した	継続
「環境保全に配慮した製品づくり」				
◆ 毎朝の全員参加型清掃により、継続的に職場環境を改善する		○	実施した	継続
◆ 鍛造ラインの稼働率を向上させ、コンプレッサの稼働を抑える		○	稼働率改善	継続
◆ 継続的に歩留り改善に努める		○	実施した	継続
「環境に配慮した建築物・工作物等の提案」				
◆ 分別排出を徹底する		○	実施した	継続
◆ 建設資材廃棄物の再資源化に協力する		○	実施した	継続

【環境関連法規への違反、訴訟等の有無】

主な適用法規等	該当する活動	遵守状況
地球温暖化対策法	事業活動全般(CO ₂ 排出抑制努力)	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の適正処理(保管・処理委託)	○
大気汚染防止法	特定施設(ショットブラスト2台)届出済み	○
水質汚濁防止法	特定施設なし、冷却水のみ放流 (排水量50m ³ /日以下)	○
下水道法	トイレ及び風呂排水のみで規制値対象外	○
フロン排出抑制法	簡易点検の実施と記録保存	○
	定期点検の実施と記録保存	○
騒音規制法	プレス等(計33台)届出済み	○
振動規制法	プレス等(計18台)届出済み	○
自動車NOx・PM法	ディーゼルトラック等 対応済み	○
消防法(危険物規制)	指定数量の1/5以下保管で届出不要	○

昨年に引き続き、夏の暑気対策と共に、騒音対策について検討していきたい。

「違反、訴訟等」

その他環境関連法規への違反や訴訟はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。また、上記法規制に関し遵守状況をチェックしましたが、現状で問題ありません。近隣からの苦情もありません。

【代表者による全体の評価と見直し・指示】 2024年7月5日

代表取締役 大智 靖志

原単位での二酸化炭素排出量(109%)、廃棄物排出量(112%)、総排水量(108%)の削減は目標を達成することができました。

2022年度3/4期より、設備起因による停止削減や型替え時間短縮の取り組み効果が現れはじめ、23年度は1年を通じて稼働率、時間当たりの生産性共に高い水準を維持することができ、結果につながりました。型替え時の型ズレ調整や人材育成には改善の余地があります。また、スクラップ排出量(99.6%)は僅かに目標未達成となりましたので、不良率削減も課題とし、2024年度の取り組みに繋げていきたいと思えます。環境保全に配慮した生産活動を意識する

・環境経営方針	2022年5月1日 改定
・環境経営目標及び環境経営計画	変更なし
・実施体制	変更なし

「次回の環境経営レポートの作成予定」

2025年7月末

